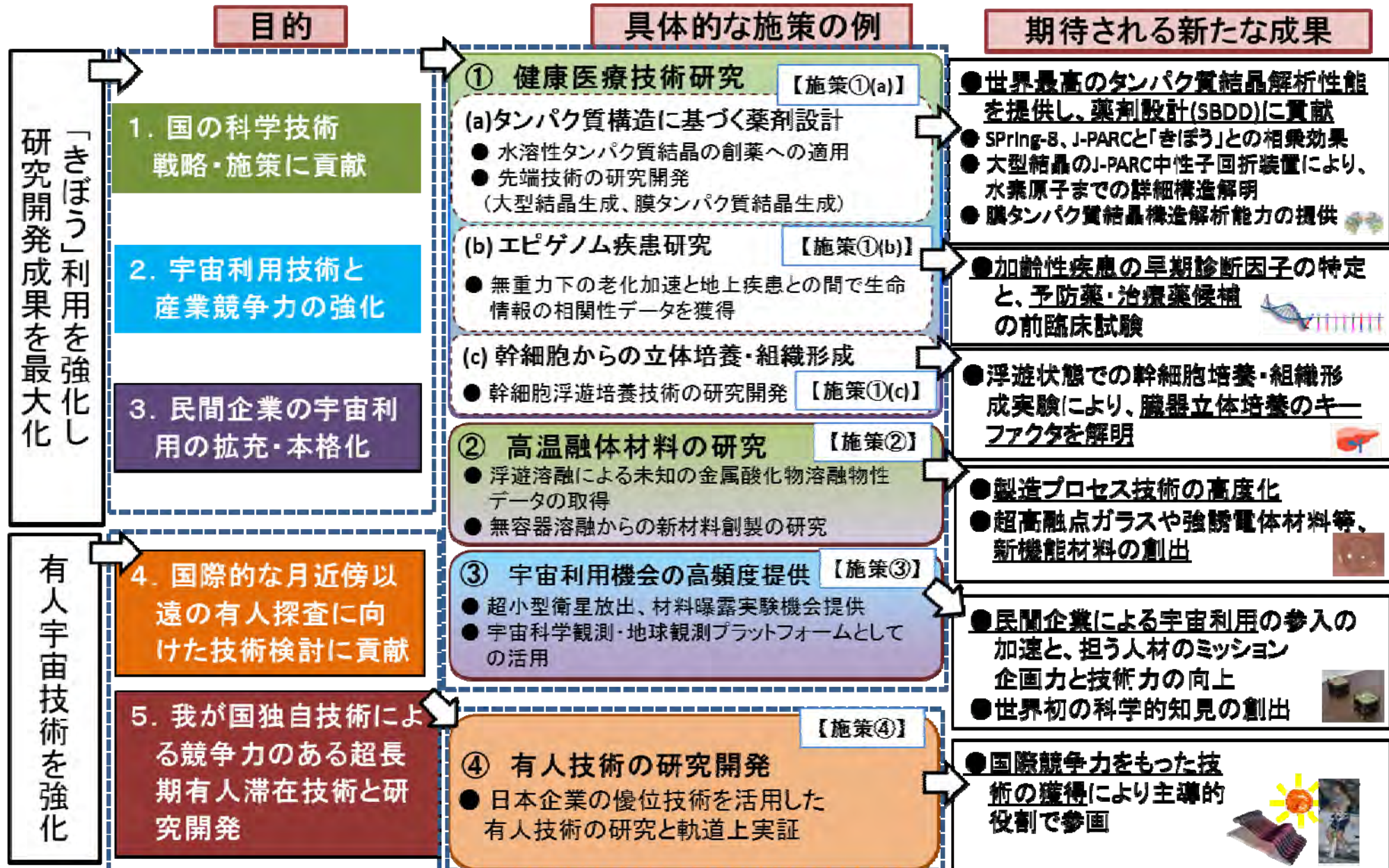


2. 今後の「きぼう」利用の取り組み



「きぼう」利用及び有人技術の今後の展望に基づき、新たな成果を創出するために以下の施策に取り組む。



2. 今後の「きぼう」利用の取り組み



これまで

- 有人輸送を除き、地球低軌道において自律的に有人宇宙活動を行うための主要な技術を獲得・実証
- 幅広い分野で、研究者等の自由な発想に基づく提案(ボトムアップによる募集)を中心に利用テーマを選定し、実験を実施。

これから

- 「(ア)有人宇宙技術の実証」に一定程度の実験機会を確保した上で、
- 「(イ)民間主体による研究開発利用」、「(ウ)国の戦略的研究」、「(エ)自由な発想に基づく科学研究」の優先順位で実験機会を確保する。

